

10. 2021年度日本数学会賞春季賞、 出版賞の授賞について

【春季賞】

日本数学会賞受賞候補者選考委員会からの選考結果報告に基づき、春季賞は九州大学大学院数理学研究院の塚本真輝氏に授賞されました。授賞理由は

‘力学系における平均次元の研究’

(英訳: Studies on mean dimension in dynamical systems)

に関する業績です。また、3月16日に慶應義塾大学において授賞式並びに同氏による‘平均次元入門’と題する受賞記念総合講演が行われ、オンライン配信されました。

【出版賞】

出版賞選考委員会からの受賞候補者選考結果報告に基づき、出版賞はつぎの方々に授賞されました。授賞式は3月16日に慶應義塾大学において行われ、オンライン配信されました。

笠原 皓司氏

授賞理由:

氏は、大学1, 2年生を主な対象とした教科書・読み物の執筆を通じて広く理学系の教養教育に多大な貢献をした。とくに、「対話・微分積分学」、「新微分方程式対話」などの会話形式による著作は、適切な題材を提供しつつ、初学者が抱く疑問に親切に答え、数学を楽しく学ばせてくれるものとなっている。1970年代以降今日に至るまで、数学の教育活動において果たした役割は、本賞に相応しいものである。

中央大学理工学部数学教室代表

三松 佳彦氏・高倉 樹氏

授賞理由:

集会"ENCOUNTERwithMATHEMATICS"

(以下 EwM) は 1996 年に三松佳彦氏により中央大学数学科で始められ 1997 年から高倉樹氏も加わり現在までに 74 回開催されている。数学研究の最新の話題が専門家によって、深く、かつ、わかりやすく解説される場合は、数学に携わる多くの研究者に分野にと

らわれない交流を促し、また学部生、大学院生を含む次世代の研究者への大きな刺激となってきた。中央大学数学教室の後援のもとで今年度 23 年目をむかえる EwM を、三松、高倉両氏が高い見識をもって安定的に運営していることは顕彰に値するものである。なお、出版賞の対象である著作活動としては、広く数学の普及活動という意味で授賞対象となった事例が種々あること、そして EwM のホームページを通じて公開されている講義録の学術的価値をも考慮し、EwM を出版賞の対象とした。